

『おじいちゃん、おばあちゃんありがとう』の作文に

目頭を熱くする

九月十五日に、町と社会福祉協議会の共催で敬老会が行われました。

今年、六百三十名の参加があり、会場の中は暑さと人の熱気でムンムンしていました。町長から『ものわかりがよすぎる今日、苦難の道のり、社会の厳しさを語りついでほしい』と、また社会福祉協議会長から『「健三幸」を合言葉に来年も再来年もお会い

しましょう』とあいさつがありました。代表者に記念品が贈られました。

小学生から「おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう」の作文の発表があり、会場はシーンとして静聴し、感激して目頭をぬぐうおじいちゃん、おばあちゃんの姿が見られました。その後恒例の演芸で楽しみました。

次の方がたに感想を伺いました。

結婚五十周年

◎林 實・たみ夫 妻

「よくここまで来たな。」

家へ帰ってから、お祝いするそうです。

◎林 正二・とく 夫妻

「いろいろありまして、今日は人生最良の日です。」

◎奥田好二・かづ 江夫妻



▲結婚50周年を迎えた18組のみなさん

敬老会に
630名参加

▲演芸を楽しむみなさん

「招待状がきてびっくりしました。来年とと思っていました。息子から旅行のプレゼントがあります。」

◎二区区長代理

「敬老会に参加し、敬老の意味を改めて認識しました。」

「多勢の方の協力により、老人の方に一日ゆっくり、楽しんでいただきました。」

秋の一日、スポーツに浸る 中学体育祭

絶好の天気恵まれた、九月十日中学の体育祭が行われました。秋風に国旗がなびいている中、入場行進・各種競技が行われ、中でも棒たおし・騎馬戦など迫力ある戦いぶり。



稲刈り時期ですが、お昼になると父兄と食事をしている生徒があちこちで見うけられました。最後に校長先生から「みごとな走り、最後まで毅然としたりっぱな態度でした。」の講評があり、スポーツを充分満喫した一日でした。

天然の蚕・繭 見たことありますか

橋場の椎名彰さん宅の門の桑の木に天然の蚕、繭がつきました。

蚕は、茎の色と同じでどこにいるのかわからなく、顔も異様でした。繭は、クリーム色をしており、ピタッと葉についていました。

蚕を見た子供の会話です。

保母 「ねえ、これなんだろう。」

Aちゃん 「動かないね、死んでるのかな？」

Bちゃん 「毛虫……？」

Cちゃん 「もう、死んでるんだ。」

よ、黒くなって腐ってる。」

保母 「ちよつと触ってみて。」

「子供達ちよつと嫌な顔して——」

Cちゃん 「ちよつとまっつて、それ毒があるよ、ほら、葉っぱもだんだん枯れてきた。」

Cちゃん 「じゃあ、なにかの葉っぱで触ってみよう！」

「そつと触ってみて——」

Cちゃん 「動かない。やっぱり死んでるんだ。」

Bちゃん 「へーんな顔、口がとがって、でも目がかわいい。」

保母 「これ蚕についてね、今さなぎになってるから動かないんだよ、じゃあ、また明日も見てこよう。」

子供達 「そつしよう、そつしよう。」